

T5-3

第128回日本森林学会大会

2017-03-28

鹿児島大学

# ナラ枯れ跡林分における シカ柵の効果

森林総合研究所北海道支所

伊東宏樹

# 調査地

- ▶ 銀閣寺山国有林（京都市大文字山）
- ▶ 2004年ごろからアオキなどにシカ食害が見られるようになってきた
- ▶ 2010年にナラ枯れピーク



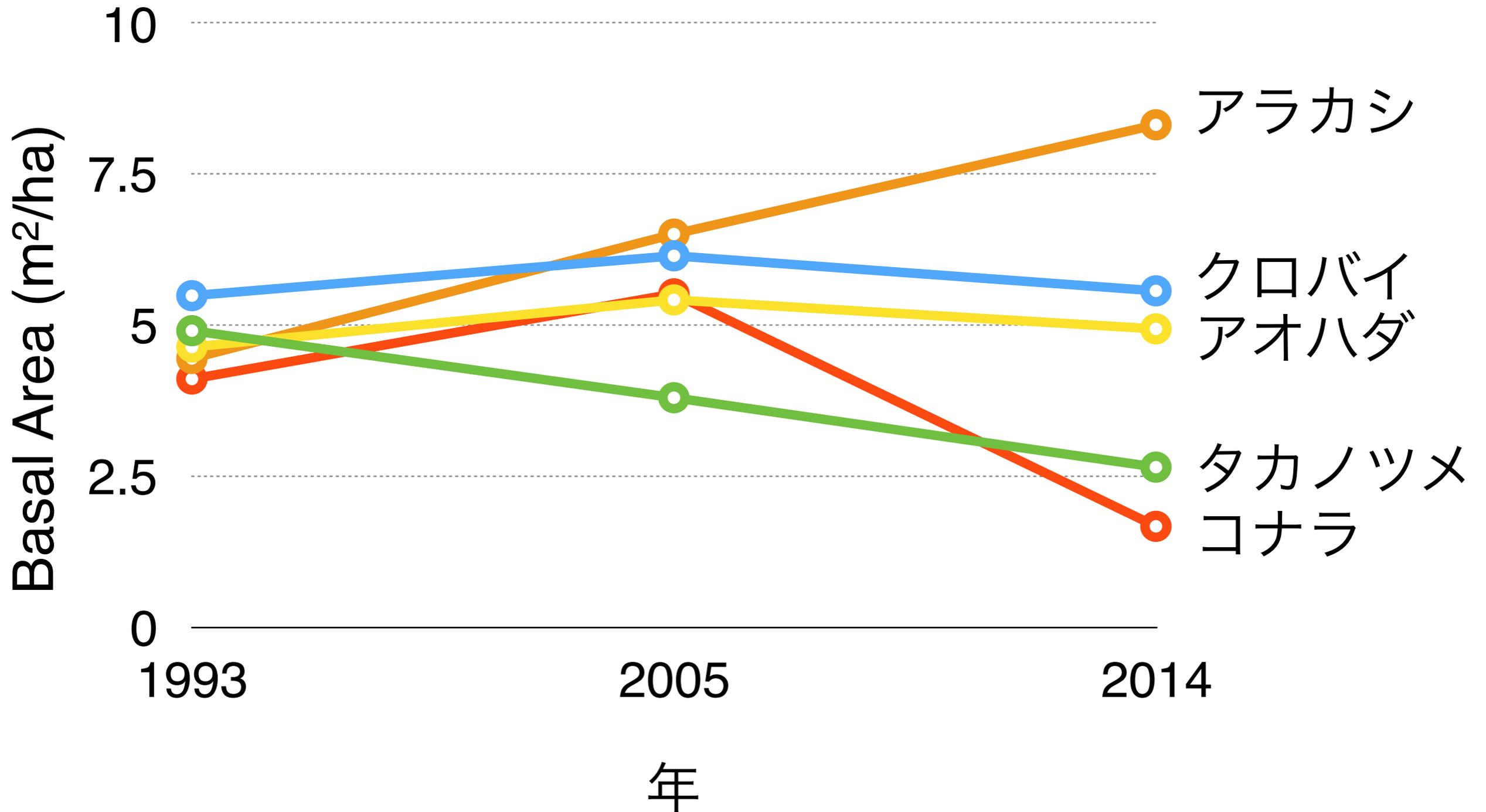
9°C

12-03-2015 13:15:27





# 上層の変化



# 下層木の状況

- ▶ アオキ・イヌツゲなどが消失
- ▶ アラカシ・サカキ・ヒサカキなどは依然として多い
- ▶ モデル計算では、ナラ枯れ跡のギャップ内では、アカメガシワ・カラスザンショウ・イヌシデ・クロバイ・ナンキンハゼなどの新規定着率が高い
- ▶ 成長しているのは、クロバイ・ナンキンハゼのみ

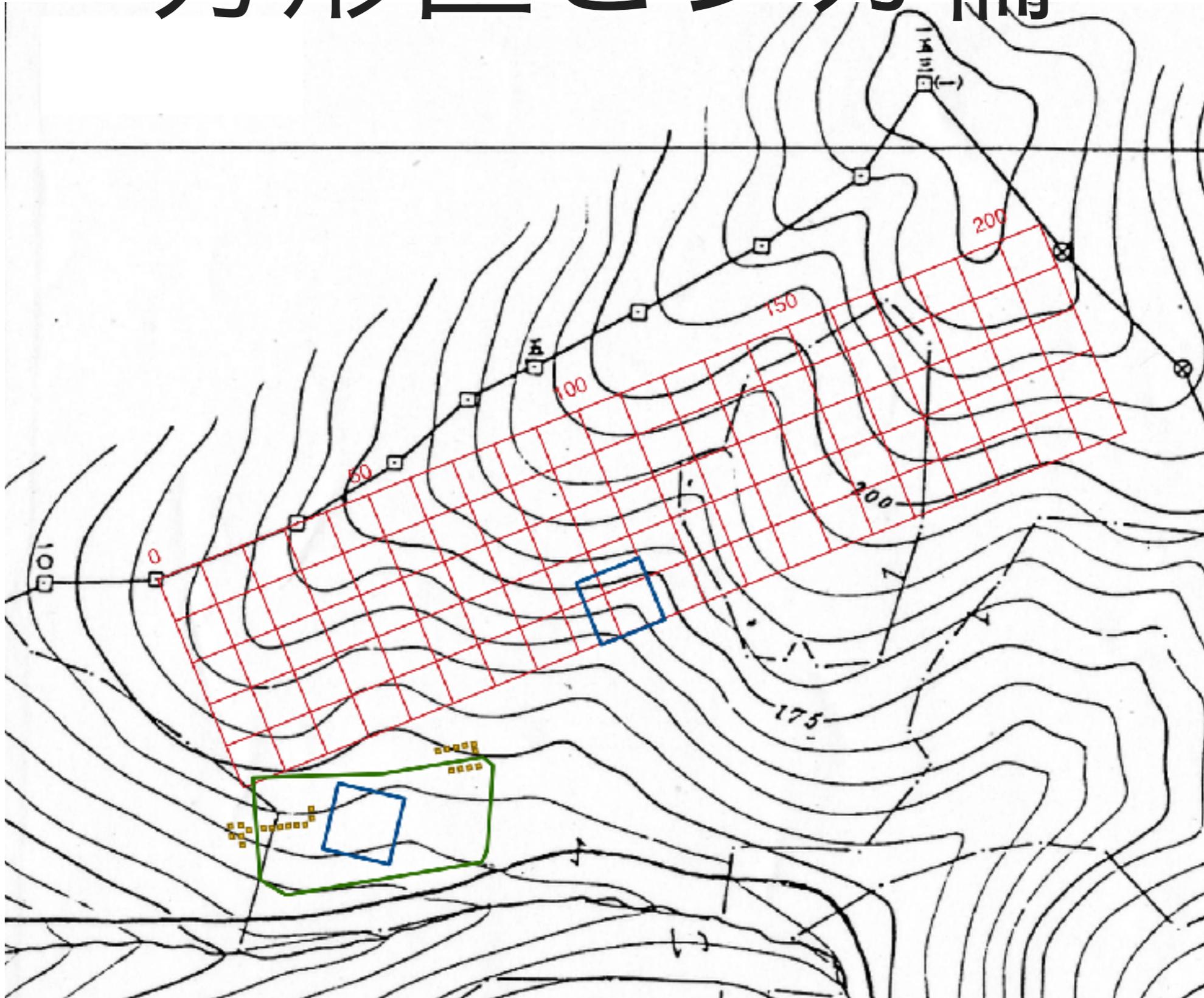




# 方法: シカ柵内外での比較

- ▶ 2011年に京都大阪森林管理事務所が、ナラ枯れ跡地のギャップにシカ柵設置
- ▶ 2015年に調査
  - ▶ 毎木調査 (樹高 1.3 m 以上)
    - ▶ 15 m × 15 m の方形区 × 各1
  - ▶ 下層木調査 (樹高 1.3 m 未満)
    - ▶ 1 m × 1 m の方形区 × 各12
    - ▶ 2015年4月時点での下層木と、それ以降に発生したものの

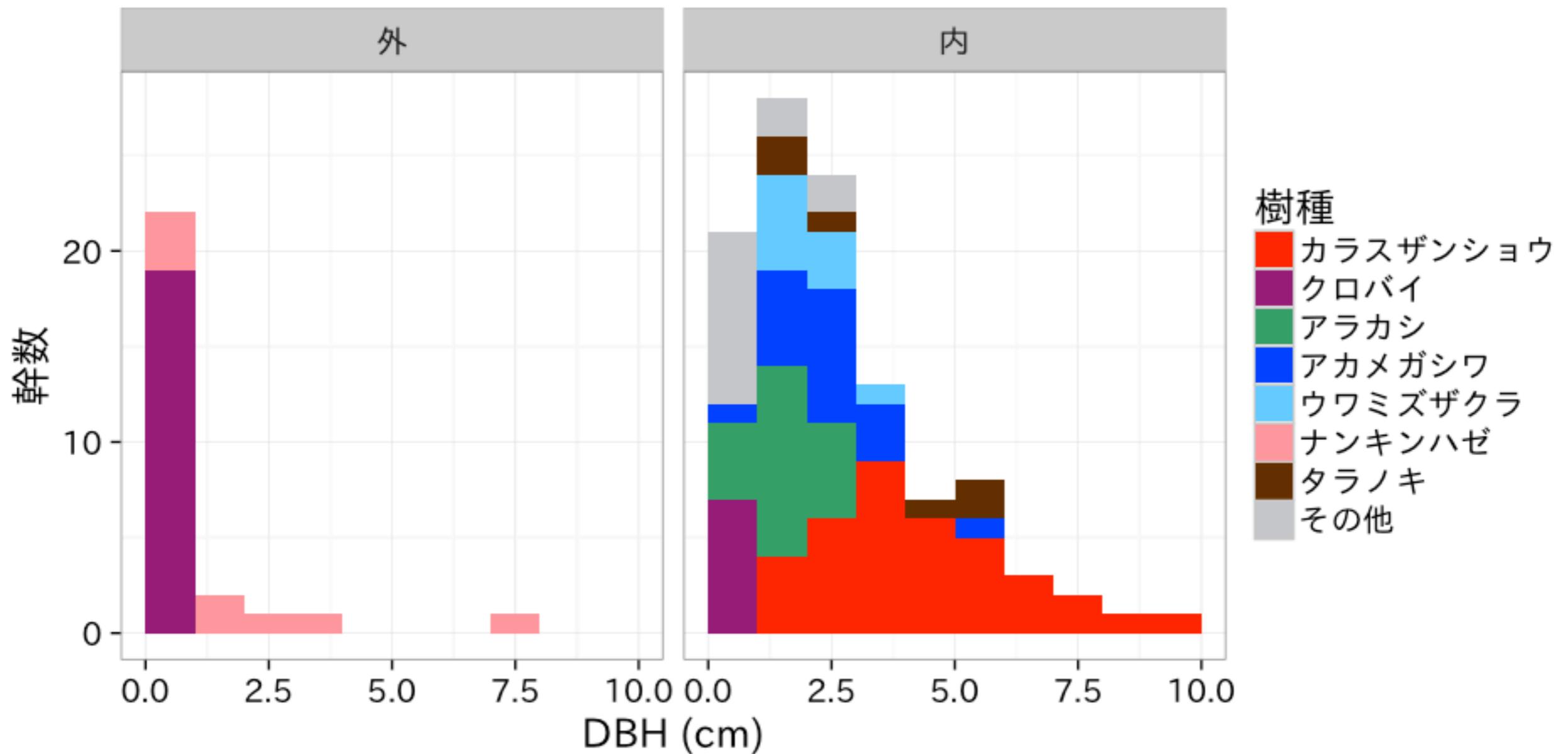
# 方形区とシカ柵





# 上層木 (H ≥ 1.3 m)

## 新規更新木

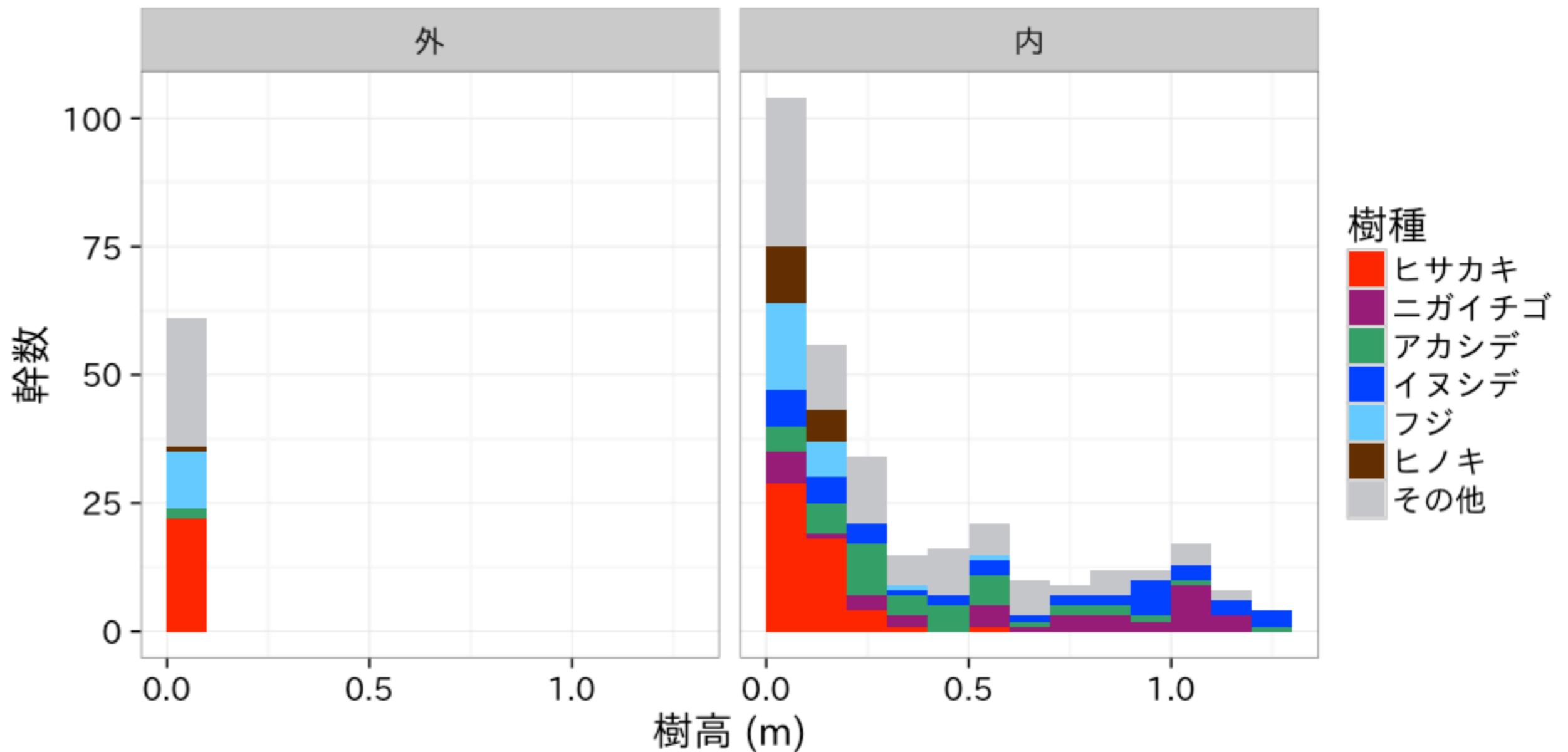






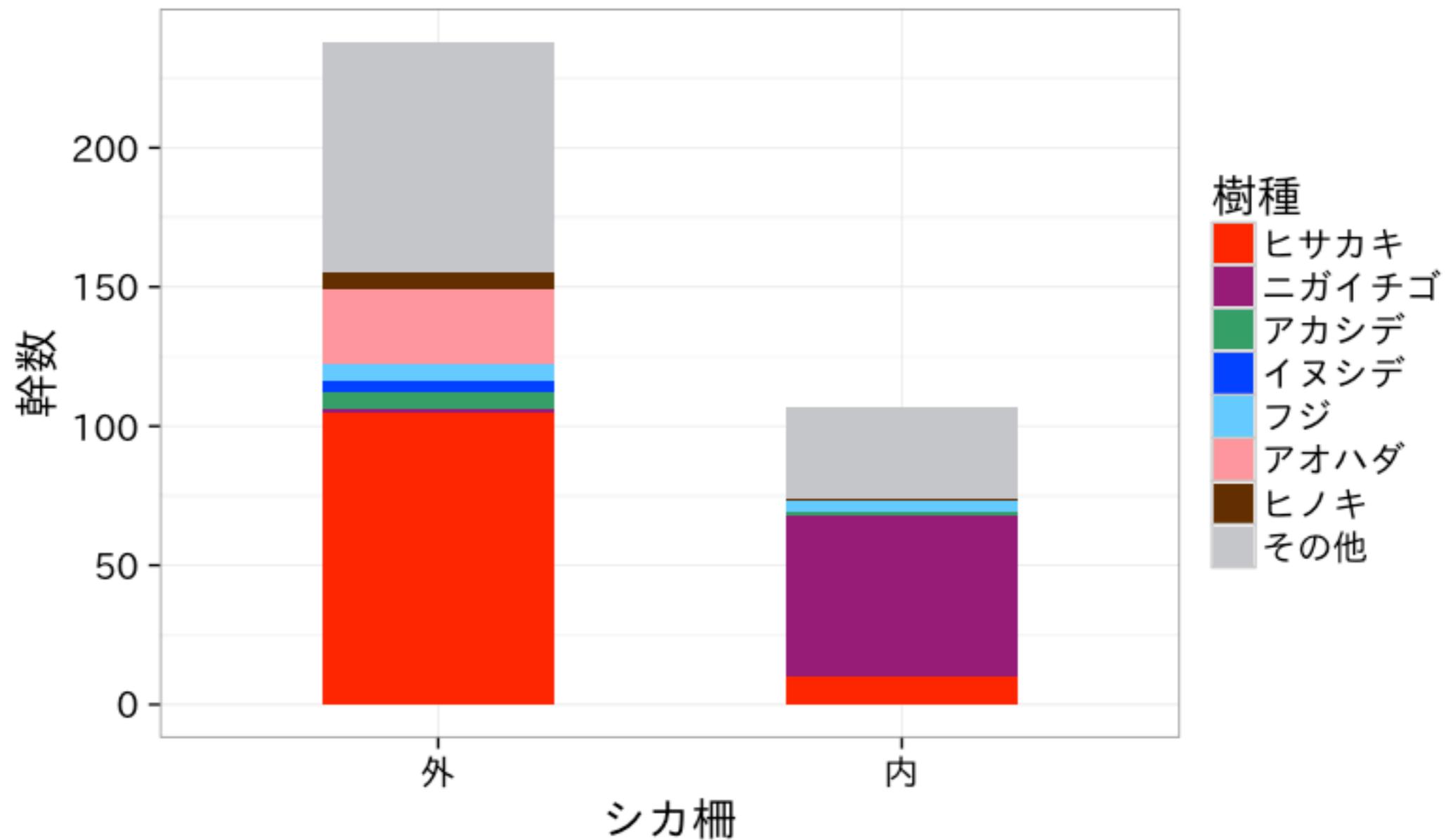
# 下層木 (H < 1.3 m)

## 在来下層木



# 下層木 (H < 1.3 m)

新規下層木





# まとめ

- ▶ シカ柵外でも実生は発生しているが、ほとんどの樹種は成長するには至っていない。
- ▶ シカ柵外で胸高以上にまで成長していたのは、ナンキンハゼ・クロバイのみ。
- ▶ シカ柵を設置することにより、カラスザンショウなどの先駆種の実生や、アラカシ・ウワミズザクラなどの萌芽による更新が可能となる。